
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第3週
(1月18日～1月24日)

- * 2010年1月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
 - * 今週は感染症豆知識「飼育鳥獣からの感染防止」も掲載しています。

平成22(2010)年1月28日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年3週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		53週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	29	74	55	65	194	301	957
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三类	コレラ				1	1	1	1
	細菌性赤痢	2	2	1	4	7	3	13
	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	1	2	5	14	64
	腸チフス							
	パラチフス							
四類	E型肝炎							1
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			1	1	4
	エキノコックス症							
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病		1			1	4	10
	デング熱							1
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア		1		2	3	1	5
	野兔病							
ライム病							1	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1	1	1	3	10	29	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		53週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
五類 (全 出)	アメーバ赤痢	1	3	3	4	10	12	39
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)						2	2
	急性脳炎 *2		1			1	5	17
	クリプトスポリジウム症		1			1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			1	1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症						3	10
	後天性免疫不全症候群	3	9	7	7	23	17	51
	ジアルジア症		1			1		2
	髄膜炎菌性髄膜炎							
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1	1	3	2	6	8	22
	破傷風						1	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			1	1	3
	風しん							4
麻しん		1		1	2	10	22	
新型※	新型インフルエンザ	—	—	—	—		—	
2010/1/27集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症: 2009年4月28日に指定された。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 65件 肺結核40件、その他の結核25件で、推定感染地は国内62件、国内及び国外(渡航先不明)2件、タイ1件、年齢は10歳未満4件(うち5歳未満3件)、20歳代5件、30歳代13件、40歳代5件、50歳代10件、60歳代6件、70歳代12件、80歳代5件、90歳以上5件であった。

〈三類感染症〉

コレラ 1件 O1エルトル小川型で、推定感染地はマレーシア、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

細菌性赤痢 4件 菌種はフレキシネル1件、ソネ3件で、推定感染地はインドネシア1件、エジプト1件、バンラデシュ1件、ベトナム1件、推定感染経路は全て飲食物による経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 2件 患者1件、無症状病原体保有者1件。血清型・毒素型はどちらもO157(VT1VT2)で、同居家族である。年齢は5歳未満1件、40歳代1件であった。

〈四類感染症〉

マラリア 2件 どちらも熱帯熱マラリアで、推定感染地はナイジェリアであった。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は都内で、推定感染経路は水系感染である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 全て腸管アメーバ症で、推定感染地は国内2件、国外2件、感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)、飲食物による経口感染1件、その他(不明)1件であった。

後天性免疫不全症候群 7件 無症候キャリア6件、AIDS1件。無症候キャリアの年齢は20歳代4件、30歳代1件、40歳代1件で、AIDS患者の年齢は40歳代であった。推定感染地は国内5件、ミャンマー1件、不明1件、推定感染経路は性的接触6件(同性間5件、異性間1件)、不明1件であった。

梅毒 2件 どちらも早期顕症梅毒Ⅱ期で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間1件、異性間1件)であった。

麻しん 1件 麻しん(臨床診断例)で、年齢は5歳未満、麻しん含有ワクチン接種歴は無かった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年3週

定点種別	対象疾患	2009年～2010年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		53週	1週	2週	3週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	70	58	69	89	0.60	148	150
	咽頭結膜熱	10	9	12	5	0.03		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	116	183	237	1.60		
	感染性胃腸炎	785	1,498	1,818	2,464	16.65		
	水痘	118	203	142	157	1.06		
	手足口病	10	11	10	19	0.13		
	伝染性紅斑	8	18	22	22	0.15		
	突発性発しん	35	67	67	98	0.66		
	百日咳	2	1	3	3	0.02		
	ヘルパンギーナ	6	3	3	1	0.01		
	流行性耳下腺炎	50	151	91	73	0.49		
	不明発しん症 (注1)	4	4	4	12	0.08		
MCLS(川崎病) (注1)	1	0	1	3	0.02			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	1,145	1,598	1,379	1,898	6.59	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	2	1	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	2	17	14	5	0.13		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	1	0	0.00	22	24
	無菌性髄膜炎	0	0	1	1	0.05		
	マイコプラズマ肺炎	0	2	3	6	0.27		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	2	0	1	0.05		

2010/1/27集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は2週連続して増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続して増加した。過去5年平均の同時期と比較して多く注意が必要である。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。今シーズンは感染症法施行(1999年)以来、最大の報告数となっており、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

* インフルエンザに関するコメントは13～14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年3週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	14			11	6			3		
～11か月	8		2	117	6	2		38		
1歳	34		12	396	27	8		49		
2歳	22	1	17	239	31	3	1	5		
3歳	7	2	10	193	30	4	3	2		
4歳	3	1	31	157	14		4			
5歳	1		25	178	17	1	6	1		
6歳			27	145	8		2			
7歳			21	130	4		4			
8歳			24	98	5	1	1			
9歳			19	104	2		1			
10～14歳			16	229	5					
15～19歳			4	64						
20～29歳		1	29	403	2				3	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	89	5	237	2464	157	19	22	98	3	1
先週比	20	-7	54	646	15	9		31		-2

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1		2		
～11か月	1	4	1	20		
1歳	7	4	2	59		
2歳	4			60		
3歳	9	1		78		
4歳	11	1		107		
5歳	4			101		
6歳	11			127		
7歳	6	1		99		
8歳	5			107		
9歳	4			78		
10～14歳	11			290		
15～19歳				174		
20～29歳				219		2
30～39歳				180	1	3
40～49歳				118		
50～59歳				51		
60～69歳				21		
70～79歳				5		
80歳以上				2		
合計	73	12	3	1898	1	5
先週比	-18	8	2	519		-9

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2010年3週

	風しん	麻しん
0歳		1
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	1

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年3週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1			27	1	1				
中央区			4	22	1					
みなと	7		1	115	10	2		6		
新宿区	4		11	85				1		
文京			1	31	1	1		2		
台東	1	1	9	79	1	1		2		
墨田区	6		1	27	3	1		1		
江東区	2		9	148	14	1	1	5		
品川区	6	1	11	109	4		2	2		
目黒区			3	30				3		
大田区	13		6	177	12	3		4	1	
世田谷		1	2	127	7			1		
渋谷区			18	59	2			2		
中野区	2		4	86	2	2	2	5		
杉並			10	84	1		1	4		
池袋				35	2			2		
北区			3	40			1	2		
荒川区	5		1	61				1		
板橋区				62		1		3		
練馬区	4		3	142	4			4	1	
足立	2		10	85	4	1	2	3		
葛飾区			6	70	5		7	6	1	
江戸川			7	132	8	1	1	5		
八王子市	4		11	144	19	1	3	6		
西多摩	3		17	88	1		1	3		
南多摩	12		3	46	10	2	1	3		1
町田	5		28	125	25	1		8		
多摩立川			8	52	1			3		
多摩府中			2	97	5			8		
多摩小平	12	2	48	79	14			3		
島しょ										
東京都合計	89	5	237	2,464	157	19	22	98	3	1

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2010年3週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	1			8		
中央区	1			4		
みなと	4			45		
新宿区	1			60		2
文京				37		
台東	1			24		
墨田区	1			40		
江東区	3			34		
品川区				58		
目黒区			1	10		
大田区	4	2		99		
世田谷	3	1	1	94		
渋谷区				17		
中野区	1	3		57		
杉並	1		1	89		
池袋				47		
北区				56		
荒川区				18		1
板橋区				37		
練馬区	1			77		
足立	1			78	1	1
葛飾区	6			62		
江戸川	7			85		1
八王子市	6	2		109		
西多摩	2			70		
南多摩	4			75		
町田	12	4		117		
多摩立川	2			51		
多摩府中	4			204		
多摩小平	7			110		
島しょ				26		

東京都合計	73	12	3	1,898	1	5
-------	----	----	---	-------	---	---

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		1
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	1
-------	---	---

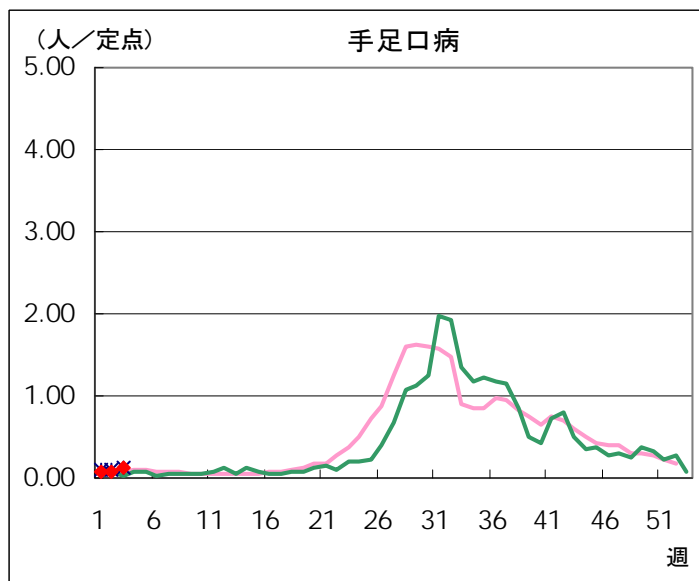
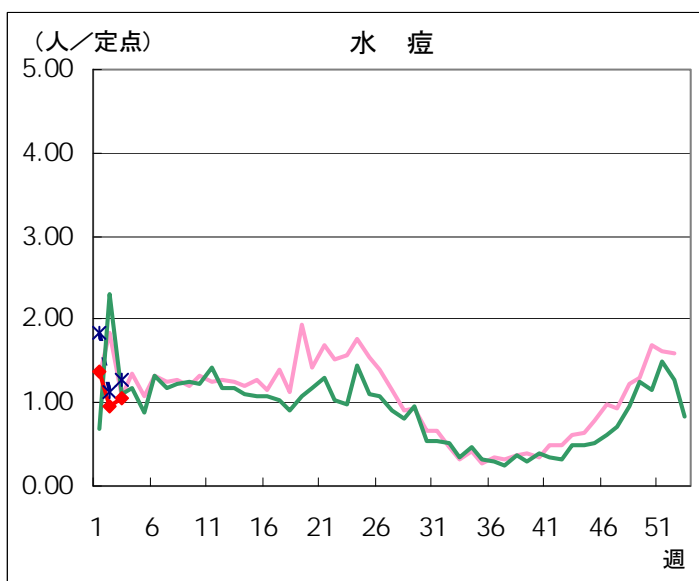
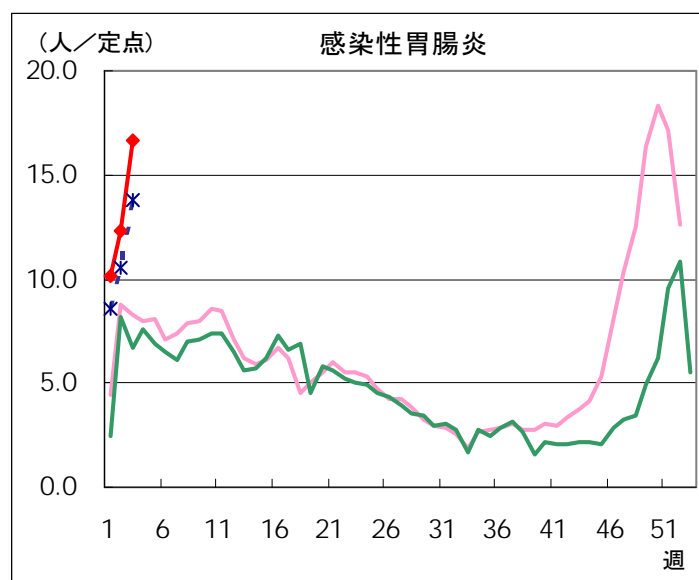
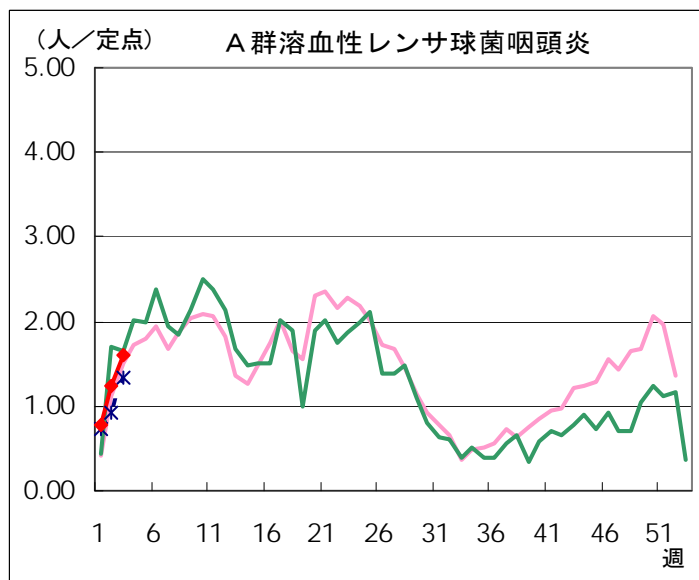
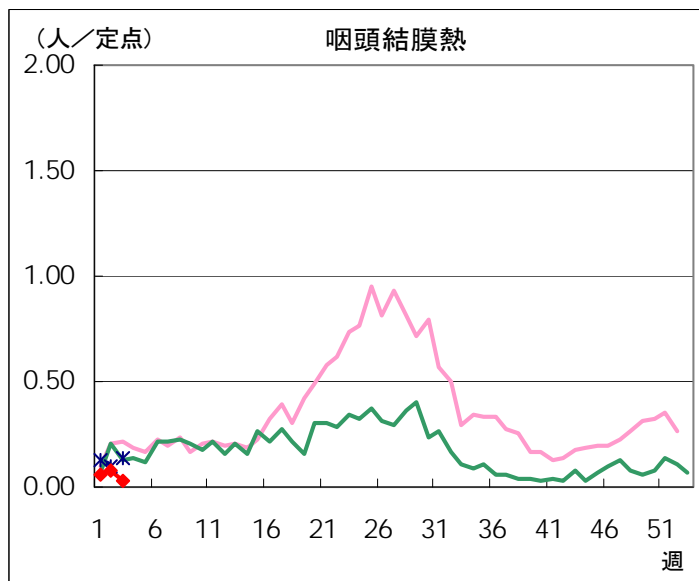
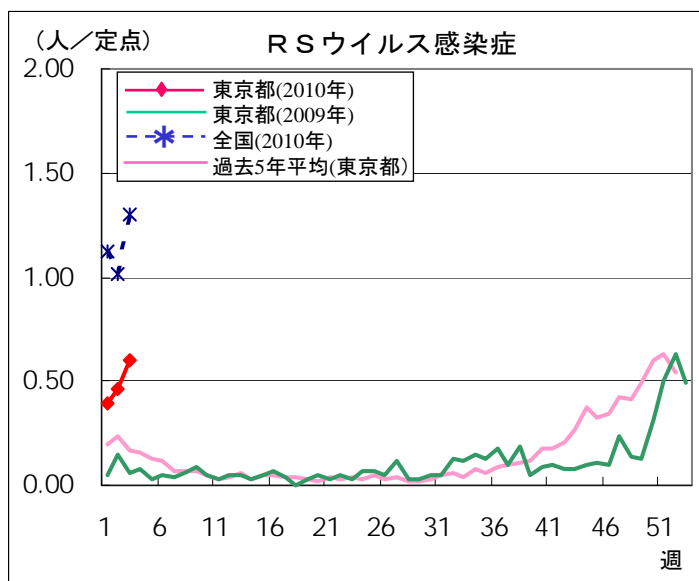
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年3週

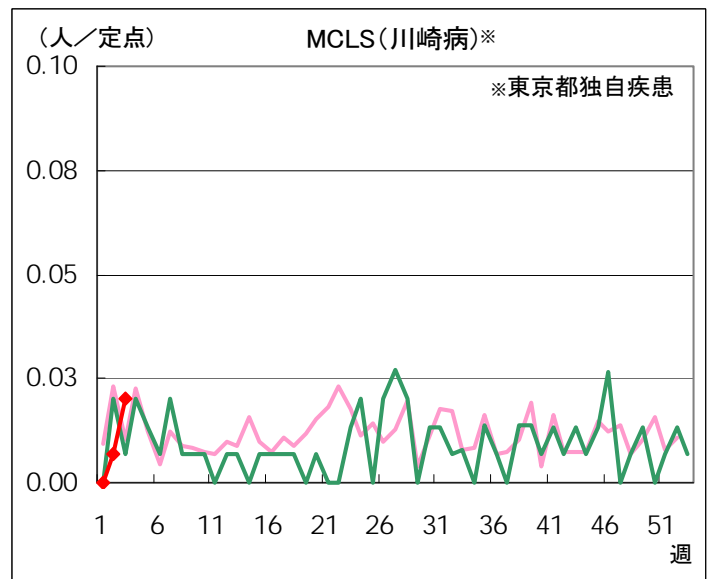
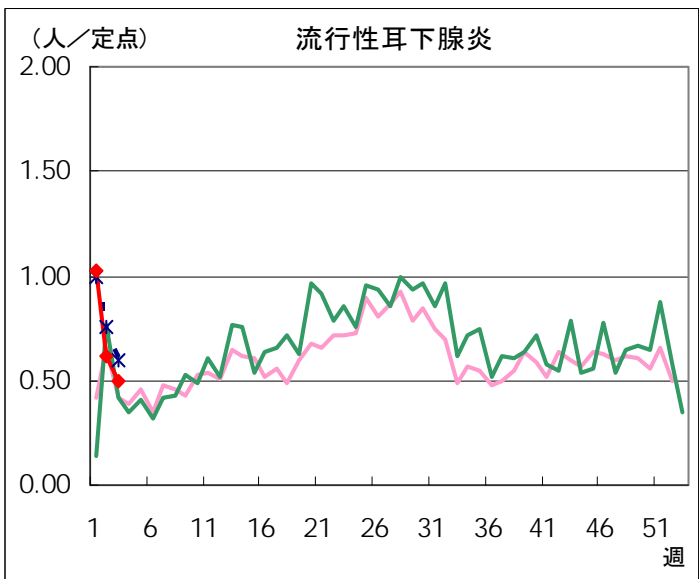
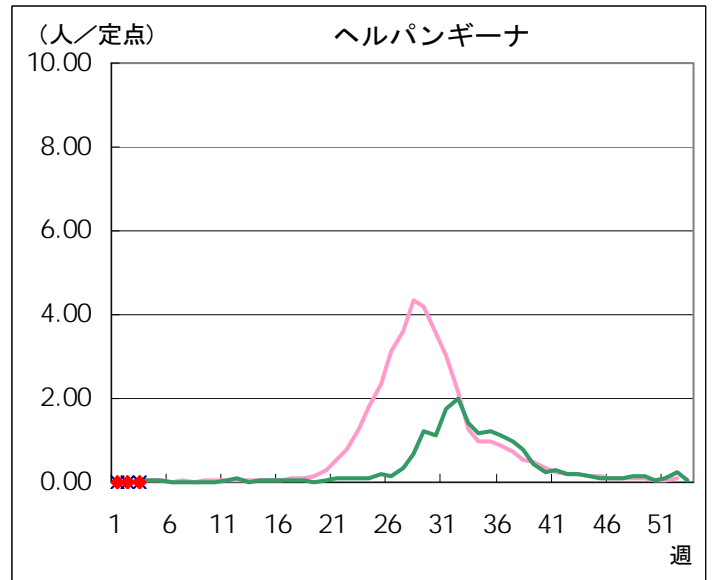
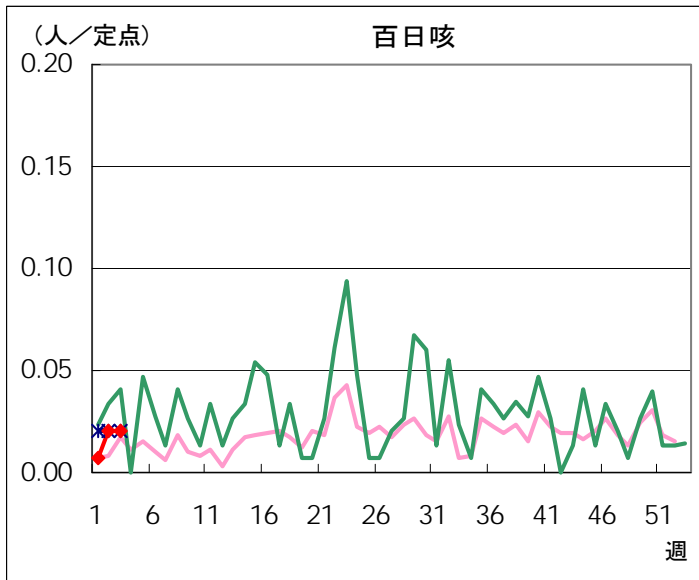
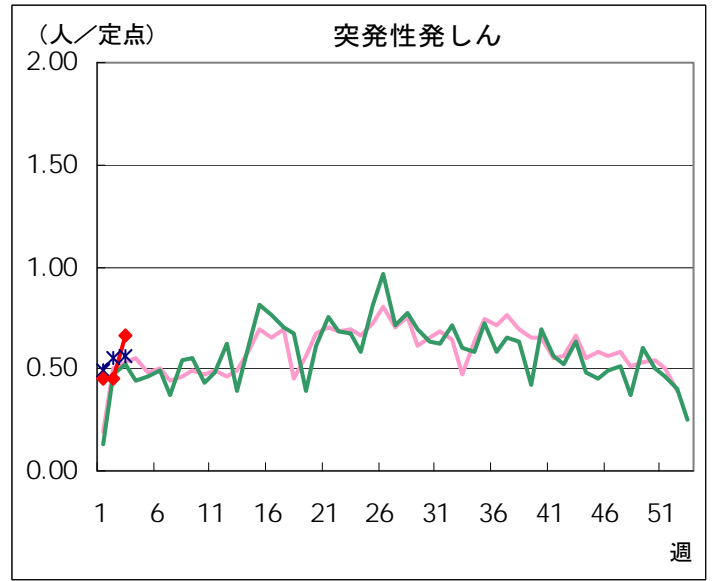
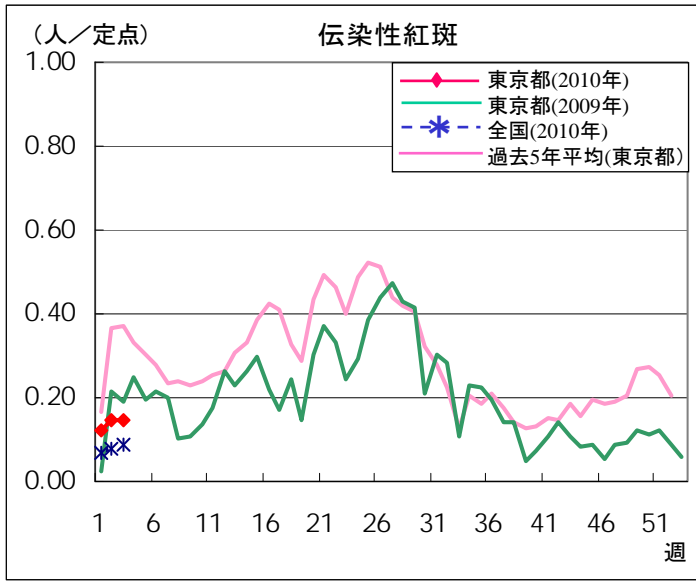
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	0.33			9.00	0.33	0.33				
中央区			1.33	7.33	0.33					
みなと	1.17		0.17	19.17	1.67	0.33		1.00		
新宿区	0.67		1.83	14.17				0.17		
文京			0.33	10.33	0.33	0.33		0.67		
台東	0.33	0.33	3.00	26.33	0.33	0.33		0.67		
墨田区	2.00		0.33	9.00	1.00	0.33		0.33		
江東区	0.50		2.25	37.00	3.50	0.25	0.25	1.25		
品川区	1.00	0.17	1.83	18.17	0.67		0.33	0.33		
目黒区			1.00	10.00				1.00		
大田区	1.44		0.67	19.67	1.33	0.33		0.44	0.11	
世田谷		0.13	0.25	15.88	0.88			0.13		
渋谷区			4.50	14.75	0.50			0.50		
中野区	0.33		0.67	14.33	0.33	0.33	0.33	0.83		
杉並			1.67	14.00	0.17		0.17	0.67		
池袋				7.00	0.40			0.40		
北区			1.00	13.33			0.33	0.67		
荒川区	2.50		0.50	30.50				0.50		
板橋区				10.33		0.17		0.50		
練馬区	0.80		0.60	28.40	0.80			0.80	0.20	
足立	0.40		2.00	17.00	0.80	0.20	0.40	0.60		
葛飾区			1.50	17.50	1.25		1.75	1.50	0.25	
江戸川			1.40	26.40	1.60	0.20	0.20	1.00		
八王子市	1.00		2.75	36.00	4.75	0.25	0.75	1.50		
西多摩	0.60		3.40	17.60	0.20		0.20	0.60		
南多摩	3.00		0.75	11.50	2.50	0.50	0.25	0.75		0.25
町田	1.25		7.00	31.25	6.25	0.25		2.00		
多摩立川			1.33	8.67	0.17			0.50		
多摩府中			0.20	9.70	0.50			0.80		
多摩小平	2.00	0.33	8.00	13.17	2.33			0.50		
島しょ										
東京都	0.60	0.03	1.60	16.65	1.06	0.13	0.15	0.66	0.02	0.01

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.33			2.00		
中央区	0.33			1.00		
みなと	0.67			5.63		
新宿区	0.17			6.67		1.00
文京				7.40		
台東	0.33			4.80		
墨田区	0.33			6.67		
江東区	0.75			3.78		
品川区				5.80		
目黒区			0.33	1.67		
大田区	0.44	0.22		6.19		
世田谷	0.38	0.13	0.13	5.88		
渋谷区				2.83		
中野区	0.17	0.50		6.33		
杉並	0.17		0.17	7.42		
池袋				5.88		
北区				8.00		
荒川区				4.50		1.00
板橋区				3.08		
練馬区	0.20			6.42		
足立	0.20			6.50	0.50	0.50
葛飾区	1.50			6.89		
江戸川	1.40			7.08		0.50
八王子市	1.50	0.50		10.90		
西多摩	0.40			7.78		
南多摩	1.00			8.33		
町田	3.00	1.00		13.00		
多摩立川	0.33			3.92		
多摩府中	0.40			9.71		
多摩小平	1.17			7.86		
島しょ				13.00		
東京都	0.49	0.08	0.02	6.59	0.03	0.13

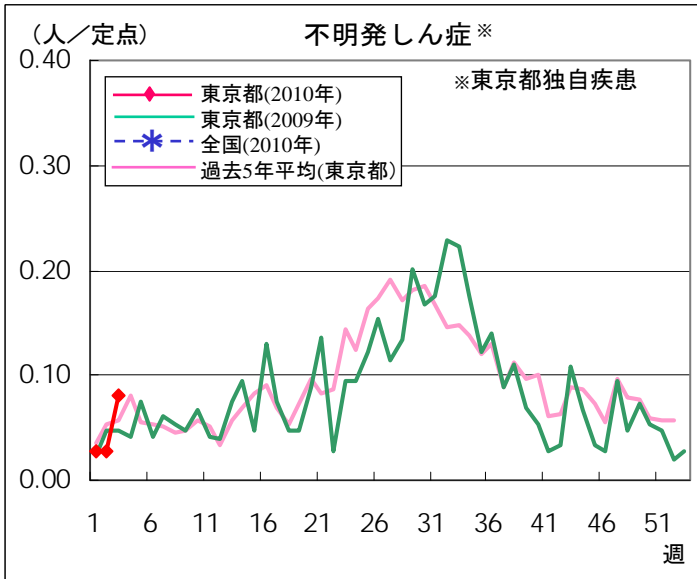
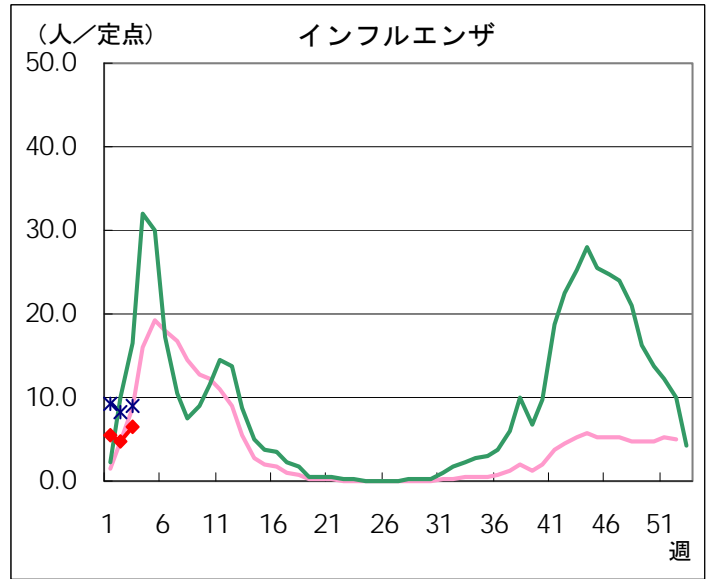
定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年3週現在

◆ 小児科定点

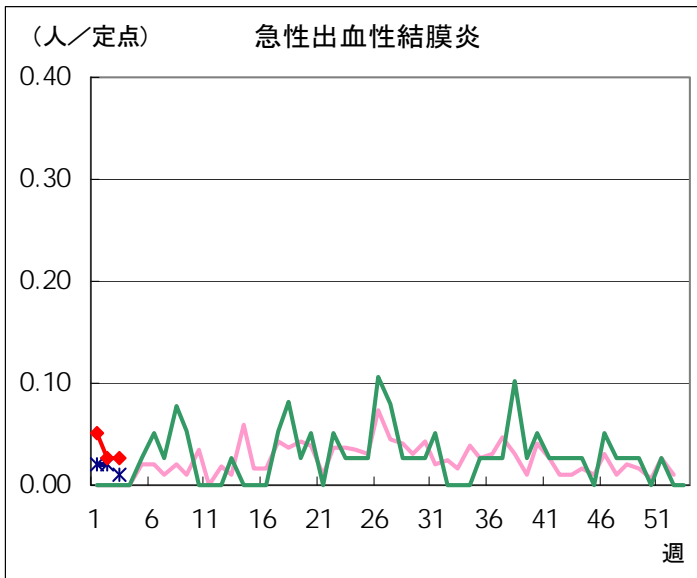
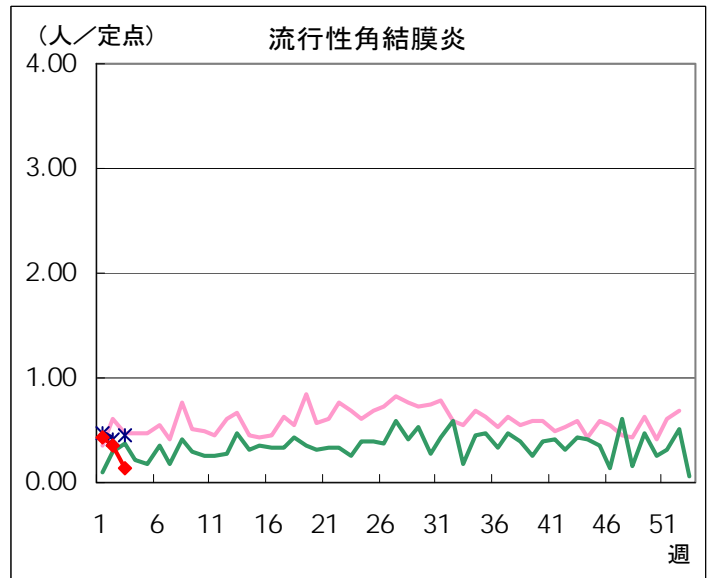




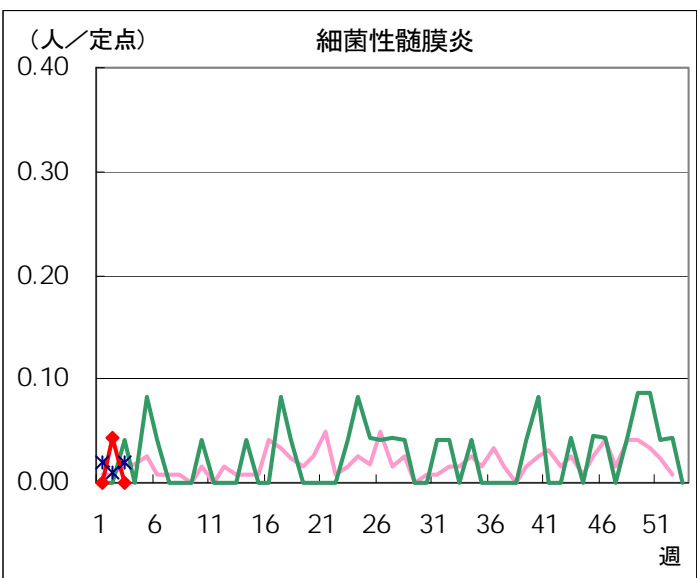
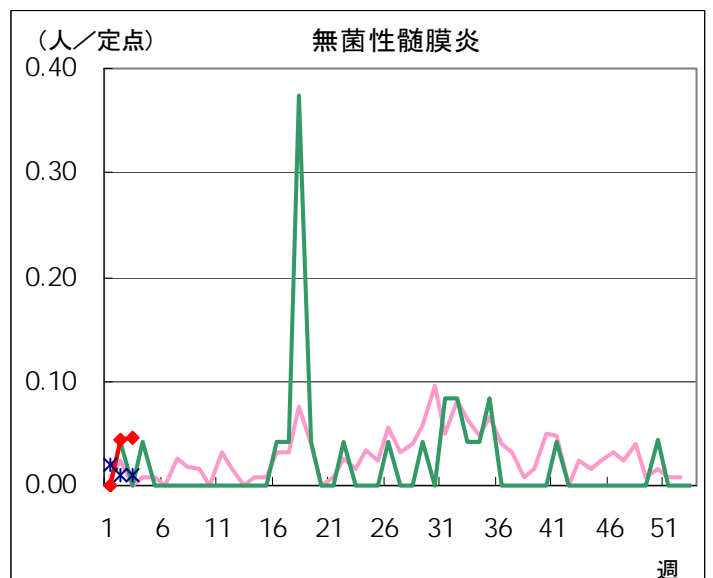
◆ インフルエンザ定点

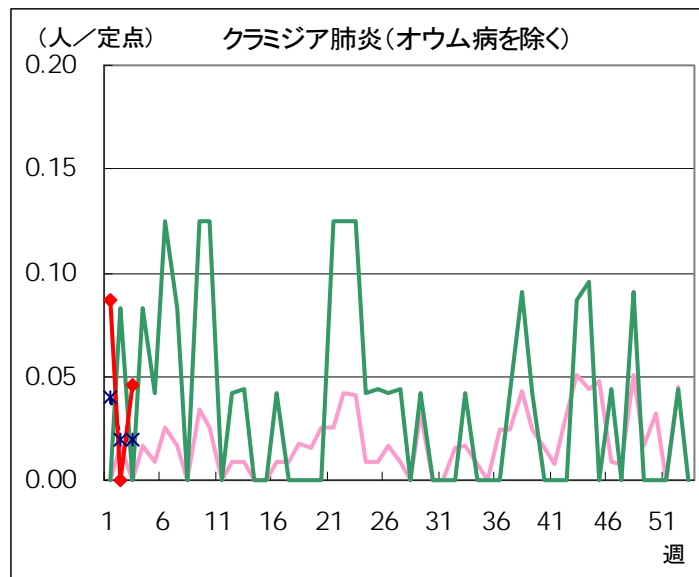
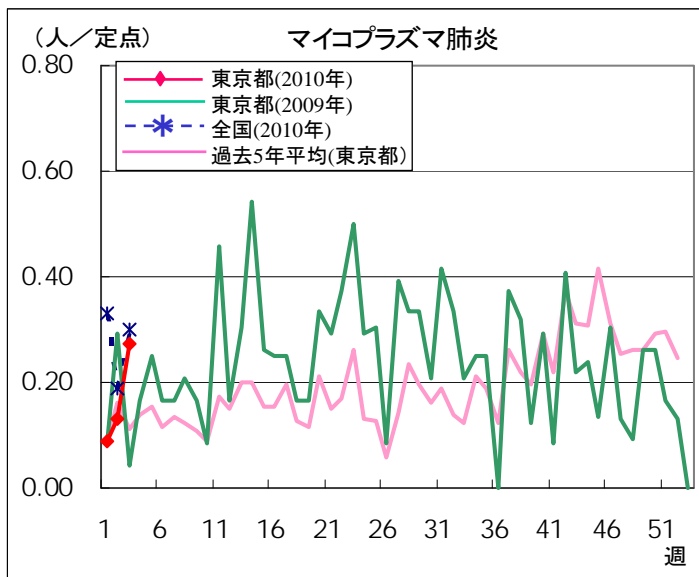


◆ 眼科定点

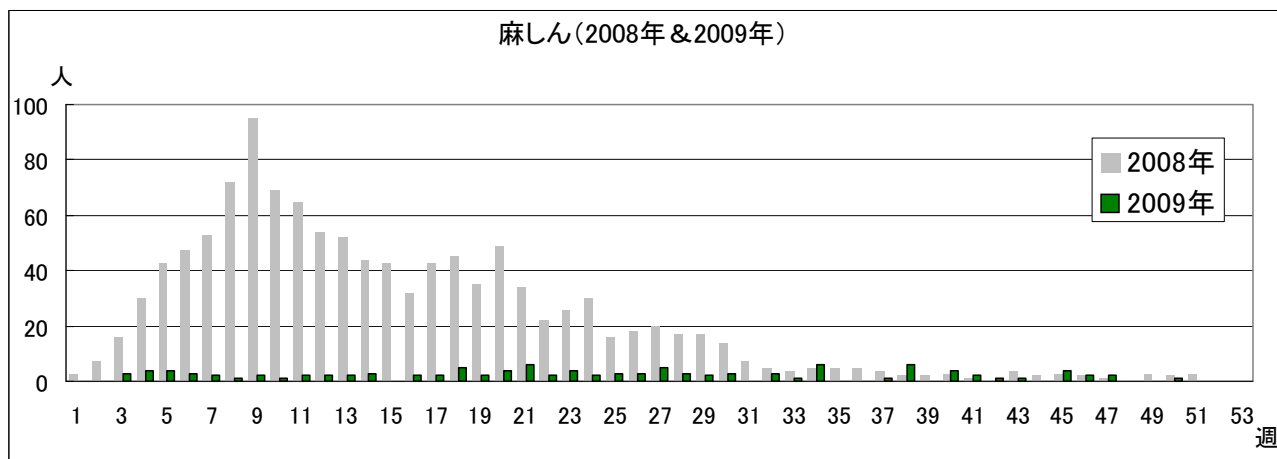
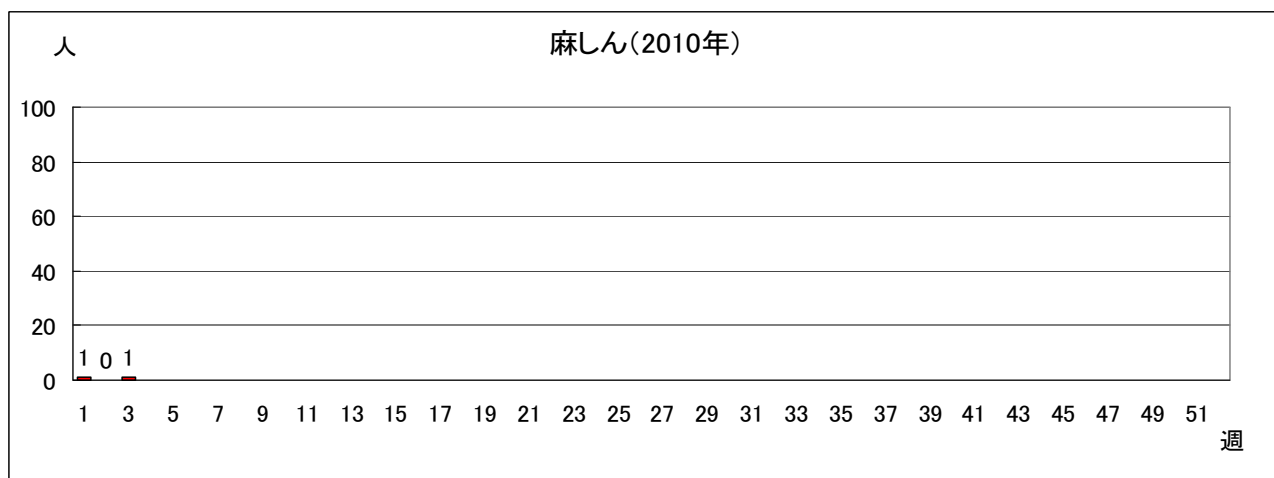


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年3週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
千代田	3		
みなと	3		
	7		10～14歳児のうち1名は、10月と今週の2回A型に罹患。
新宿区	9		
	21		
	4		
江東区	9		
目黒区	1		
	3		
	5		
大田区			4歳児は11月に新型インフルエンザ2回接種済みです。
	3		
	7		
	8		
	5		
	12		
中野区	2		
	2		同家族です。
	6		
	7		
	6		型不明2名。
	3		
	14		
	3		
	6		型不明4名。
池袋	2		
	13		
北区	2		
	13		少なくなったとはいえ、まだインフルエンザがあることは確かで、22、23日だけで8名の受診があり、第二波の可能性もあります。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
西多摩	4		
	18		
	1		
多摩立川	7	1	
	3		
	5		
			若年層から、20代前→20代後半～30代へ、年齢層が上がっていると思います。
多摩小平	4		
	4		
	28		第2波が始まりそうです。
	19		
	1		
	13		
八王子市	4		
	19	1	
	1		
	2		
	2		
	7		
	43		臨床診断3名です。
	13		

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
1/6	伝染性紅斑	10M	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	遺伝子
1/7	インフルエンザ	4	咽頭拭い液	アデノウイルス 新型インフルエンザウイルス	
1/9	急性腸炎	9	糞便	ノロウイルス	
1/11	喘息性気管支炎	7M	咽頭拭い液	RSウイルス	
1/12	流行性耳下腺炎	記載無し	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
1/13	けいれん重積	8M	髄液	ヒトヘルペスウイルス6型	
1/13	不明熱	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型	
1/14	急性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス、アデノウイルス	
1/14	胃腸炎	8M	糞便	ノロウイルス	
1/15	不明発しん症	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
1/15	突発性発しん	8	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
記載無し	急性扁桃炎	記載無し	咽頭拭い液	EBウイルス	
記載無し	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
2週	0	0	0	20
今シーズン累計**	1	0	0	592

* : 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

** : 新シーズン(2009-2010シーズン)の開始は第36週(8月31日~9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年～2010年							
		48週	49週	50週	51週	52週	53週	1週	2週
ウイルス	アデノウイルス	2	5	7	2	5	1	6	2
	ライノウイルス	5	8	14	5	5		7	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス		1	2	3	4			
	単純ヘルペスウイルス							1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
	ヘルペスウイルス6/7	2	4	2	5	2		3	4
	EBウイルス		2	3				2	1
	サイトメガロウイルス				2	2			
	ムンプスウイルス	1	1					2	1
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								1
	RSウイルス	3	4	7	3	5		7	1
	ノロウイルス			1	2				4
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
インフルエンザウイルスB									
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	29	50	33	31	21	6	21	20	
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター					2			
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌		2	1				4	
	その他の細菌				1				
その他の病原体					3			1	

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年48週～2010年2週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	224	27	74	36	21	9		3		3	4	12	10	1			135	
ウイルス	アデノウイルス	6	6	10	2		1	1									4	
	ライノウイルス	10	3	19	4							3		1			4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	2	2	1	1		1			3								
	単純ヘルペスウイルス																	1
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1												
	ヘルペスウイルス6/7		1									8						13
	EBウイルス		2									1	1					4
	サイトメガロウイルス											3						1
	ムンプスウイルス					2								3				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19										1							
	RSウイルス	1		25										1				3
	ノロウイルス				6													1
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3																		
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	188	5	13			3											2	
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス																		
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		5	2														
その他の細菌			1															
その他の病原体			1														3	

感染症豆知識

飼育鳥獣からの感染防止

動物由来感染症の予防は、対象動物種や飼育、飼い主などの条件を考慮し、総合的に考えなければならない。健康と思われる動物でも病原体を保有する場合があります、また節足動物は病原体を伝播することが多いため、これらの有害動物の駆除は病原体対策、感染経路対策としても重要である。主な防止策は、動物に触れたり、公園や砂場で遊んだ後の手洗いの励行。動物の排泄物は直ちに処理し、飼育環境の衛生管理を徹底する。咬傷、引っ掻き傷を防止するため動物は適正なしつけと取り扱いをする。万一の受傷には、直ちに傷口を洗浄・消毒し、必要に応じて医師の診察を受ける。乳幼児、高齢者、免疫系の疾患罹患者が動物と接触する場合は注意する。エキゾチックアニマルは各種病原体を保有していると思われるため、ペットとして飼育しない。動物が餌を介して感染する細菌性、寄生虫疾患を予防するため、調理した餌や既製のペットフードを与える。室内で鳥類を飼育する場合は、換気を心がける。動物を定期的にシャンプー・ブラッシングして、皮膚を清潔に保ち、フケなどによるアレルギー性反応および真菌性皮膚疾患やダニなどの外部寄生虫疾患を予防する。動物の健康状態に留意し、定期的な獣医師の診察を受けて病気の早期発見、早期治療を心がけ、積極的にワクチンを受ける。我が国の犬猫は約 2683.9 万頭（平成 20 年度、ペットフード工業会）が飼育され、ヒトの生活と相互依存に深く関わっている。このためヒトと動物の距離が近くなり、動物由来感染症の感染の危険性が高まっている。医師・獣医師は動物由来感染症を熟知し、情報に基づいた公衆衛生の重要性の都民への啓発を共働する。

（文責 NPO 法人日本パスツール協会理事 池田忠生）